

瀬部小だより 6月号

平成17年6月13日



今月は、保護者の皆さんからいただいたご意見・感想を載せます。

1 あるお母さんからのメールです。

最近、子どもとのふれあいでとても楽しみなことがあります。

それは、5年生になって始まった家庭科の授業です。

ある日「ねえ、洗濯するとき、どんなことに気をつけている？」という質問が子どもからありました。

「えっ？ 気をつけていること？」

「何も気をつけずに、洗濯しているの？」 毎日、山のような洗濯物を前にため息をつきながら惰性で洗濯していたんですね。「カッターシャツだけどうして別に洗うの？」「ナフキンは別にバケツにつけておくのはどうして？」親のやることをちゃんと見ているんだと驚き。洗濯ひとつとっても、いろいろなことに気を配っているのですね。改めて気づかされました。授業で洋服のたたみ方を実習してきた日は、早速実践で教えてくれます。

「こうやってたたむんだよ。」と得意げです。

「おいしいお茶の入れ方」というのもありました。子どもが入れてくれたお茶は、甘くておいしいと我が家では評判です。

家庭科で、子どもも私も次は何をするのかな？わくわくととても楽しみです。

学校の授業内容を話題にすることで、お子さんの学ぶ意欲を喚起して見えます。お子さんの質問にさりげなく答えてみえますが、「いじめられていない。だいじょうぶ。」と聞くよりも、今、子どもが学んでいることに関心を寄せることで、子どもとの心の通い合いが深まっています。子どもと一緒に学んでいこうという親の姿勢が、いっそう子どもの学びを刺激しているように見られます。

2 学校公開期間に授業参観された方のご意見・ご感想です。

おばあちゃんの見解です。

授業参観を見に行ってくださいと言う嫁。本当にうれしく思っています。



来校証を胸にかけ、校門を入りました。何年たっても変わらぬ子どもたちの生活態度に安心感を覚えます。教育には今しかできない、今、心に覚えさせなければと思うことがいっぱいあります。

物があふれた時代に生まれた子どもにも、何もない時代に生まれた子どもにも、思考力が問題にされる時代でも、いつの時代で



も学校教育は必要です。本当に学校教育の場がしっかりしているので、瀬部小を誇りに思って帰りました。ありがとうございました。

祖父母の皆さんの参観を歓迎します。長い年月を生きてこられた知恵で学校現場を見ていただいております。家に帰られてから、お孫さんやお嫁さんとどんな会話が生まれたか、とても興味があります。

来校証についての意見です。

来校証はとてもよいことだと思いますが、あってもなくても、自由に入れる状況は、以前と変わりなく、もし、今悪い人が入って来たら、どうなるんだろうと少し不安に思いました。チェックをしたほうがいいと思います。



教職員には、来校証のない方には、声をかけるように指導しています。ただ、すべての来校者に声をかけることは難しいと思います。ですので、保護者同士で、来校証はお持ちですかと声を掛け合っただけでないでしょうか。多くの入り口でチェックする人員の余裕も学校にはありません。できたら、保護者の皆さん方で声を掛け合っただければ自然な形でのチェックとなります。また、来校証のない方がみえたら、職員室まで寄っていただくよう声をかけていただけるとありがたいと思います。

ごみが出て、子どもに学ばせたい。

図工の授業でした。はさみを楽しそうに使い、ニコニコ顔で紙を切っていました。

家では、「ごみが出るからやめなさい！！」とあまりやらせていないため、とても楽しそうでした。家でもどんどんやらせてあげようと思いました。

高学年になるにつれて、机の大きさも変わり、授業もみんなちゃんと先生の方を見て、取り組んでいるなど感じました。ただ、低学年の教室から「だまれ！」と注意してみえる声が聞こえました。低学年には少しこわい言葉かなと感じました。



ごみのように見えるけれども、教育には必要なことがあります。終わったあとで片付けることを教えることも立派な教育になります。高学年になるに従い、子どもたちも学習習慣がついていきます。教育は、時間をかけた「しつけ指導」でもあります。しかし、「だまれ！」という言葉が、どんな理由で、どんな場面で、発せられたかは分かりませんが、子どもへの援助的な言葉がけをするよう指導します。

今回掲載した文章は、原文の趣旨を大切にして、表現を変えたところがあります。